



図書館通信

最上校図書委員会 No.10 8月28日

第169回 芥川賞・直木賞 前期決定!

7月19日、東京・築地「新喜楽」において、選考会が開かれた。両賞は1935年に制定。芥川賞は新聞・雑誌に発表された純文学短編作品、無名・新進作家が対象。直木賞は新聞・雑誌・単行本として発表された短編および長編の大衆文芸作品の中から、無名・新進・中堅作家が対象となり、優れた作品に贈られる。



永井紗耶子・垣根涼介・市川沙央

芥川賞は市川沙央さんの「ハンチバック」(文芸春秋)に決まった。「最初の投票から圧倒的な支持を得て、2回目の決選投票はありませんでした」と、選考委員を代表して平野啓一郎さんが説明した。直木賞は垣根涼介さんの「極楽征夷大將軍」(文芸春秋)と、永井紗耶子さんの「木挽町(こびきちょう)のあだ討ち」(新潮社)の2作だった。選考委員を代表して、浅田次郎さんは

「1回目の投票で垣根さんと永井さんの二つがまったく同じ得点で、2回目の投票でもなおかつ同じ得点だった」と明かし、「あっさり2作受賞になりました」と話した。

芥川賞受賞作『ハンチバック』市川沙央著

私の身体は、生き抜いた時間の証として破壊されていく。

「本を読むたび背骨は曲がり肺を潰し喉に孔を穿ち歩いては頭をぶつけ、私の身体は生きるために壊れてきた。」

井沢釈華の背骨は、右肺を押し潰すかたちで極度に湾曲している。両親が遺したグループホームの十畳の自室から釈華は、あらゆる言葉を送りだす



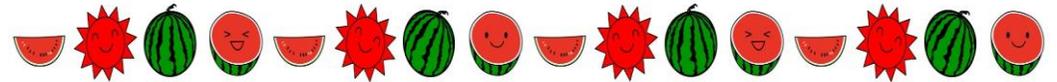
直木賞受賞作『木挽町のあだ討ち』永井紗耶子著

ある雪の降る夜に芝居小屋のすぐそばで、美しい若衆・菊之助による仇討ちがみごとに成し遂げられた。父親を殺めた下男を斬り、その血まみれの首を高くかかげた快挙は多くの人々から賞賛された。二年の後、菊之助の縁者という侍が仇討ちの顛末を知りたいと、芝居小屋を訪れるが。現代人の心を揺さぶり勇気づける令和の革命的傑作誕生!



直木賞受賞作『極楽征夷大將軍』垣根涼介著

史上最も無能な征夷大將軍。やる気なし、使命感なし、執着なし、なぜこんな人間が天下を獲れてしまったのか? 混迷する時代に、尊氏のような意志を欠いた人間が、何度も失脚の窮地に立たされながらも権力の頂点へと登り詰められたのはなぜか? 幕府の祖でありながら、謎に包まれた初代將軍・足利尊氏の秘密を解き明かす歴史群像劇。



新庄北高最上校図書館9月開放カレンダー

9月図書館企画 作家特集 「井上ひさし」展

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|------------|---|------------|-------------|--------------|------------|
| | | | | | 1 | 2 地域貢献日 |
| 3 | 4 代休 | ⑤ | ⑥ | 7 | 8 | 9 |
| 10 | 11 代休 | ⑫ | ⑬ | 14 | 15 | 16 |
| 17 | 18 敬老の日 | ⑰ | ⑱ | 21 後期生徒会 | 22 マラソン大会 | 23 秋分の日 |
| 24 | 25 | ⑳ | 27 中間試験 | 28 中間試験 | 29 中間試験 | 30 |

※○数字の日が開放日です

9月図書館企画 作家特集 「井上ひさし」展



山形県東置賜郡小松町中小松（現・川西町）出身
本名井上廈（ひさし）1934年11月17生まれ
2010年4月9日没（享年76歳）

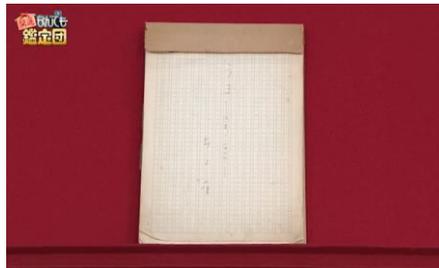
井上には未完の作品が何点かあるが、1974年1月
から初の連載小説となる「熱風至る」を『週刊文春』

に連載した。新選組をモチーフとした時代小説で、掲載予告では「人気絶頂作家の
長篇小説が初めて週刊誌に登場」「ひさしの新選組」などの文言が踊る鳴り物入り
の連載スタートだった。しかし、差別的内容が編集部の不興を買い、連載は丸2
年続いた後、完結を待たずに終了となった。

この作品の原稿が開運なんでも鑑定団に
「井上ひさしの未発表戯曲原稿」と
して出品された。

内容は17年前、53歳の若さで亡くなった夫は
コーヒーが好きだったため、今も毎朝コーヒーを

淹れ、祭壇にお供えしている。実はお互い20代の頃、全国の中学・高校を巡回公
演する劇団の役者だった。27歳の時に結婚。その2年後、妊娠を機に引退し、出
産後は会社員をしながら夫を支えてきた。お宝は40数年前、夫が劇団の演出家か
ら頂いた物。夫は自ら演出もしたいと考えており、その希望を汲んだ演出家が大事
に温めていたお宝を譲ってくれた。以来、夫は大切に保管していたが、結局、上演
することなく亡くなってしまった。その後、お宝の行方は分からなくなっていたが、
去年、大掃除をして発見。どの位価値があるのか、亡き夫に報告したい。と、いう
ようなことでした。その後、原稿は井上の妻が買取り、発表されることとなった。
原稿は「仙台文学館」に収蔵展示されています。



『熱風至る I・II』

一部でしかその存在が知らていなかった幻の小説。
これで初めて、小説家・井上ひさしの「全容」が明らかになる。最後の「新刊」小説。直木賞受賞直後の1974
～75年、「週刊文春」に連載された1700枚に及び
未完の大長編。



最上校にもたくさんの井上ひさし本を蔵書しています。ぜひ図書館へ！

- ・小説
 - 『手鎖心中』直木賞受賞作
 - 『ドン松五郎の生活』
 - 『浅草鳥越あすま床』
 - 『日本亭主図鑑』
 - 『戯作者銘々伝』
 - 『下駄の上の卵』
 - 『吉里吉里人』
 - 『ブンとフン』
 - 『不忠臣蔵』
 - 『腹鼓記』
 - 『一週間』
- ・戯曲
 - 『小林一茶』
 - 『國語元年』
 - 『道元の冒険』
 - 『闇に咲く花』
 - 『イヌの仇討』
 - 『表裏源内蛙合戦』
 - 『国語事件殺人事件』
 - 『吾輩は漱石である』
 - 『泣き虫なまいき石川啄木』
- ・随筆
 - 『本の枕草子』
 - 『自家製文章読本』
 - 『井上ひさしの世界』
 - 『コメの話』
 - 『どうしてもコメの話』
 - 『井上ひさしの子どもに
つたえる日本国憲法』

